

カトリック八尾教会ニュース

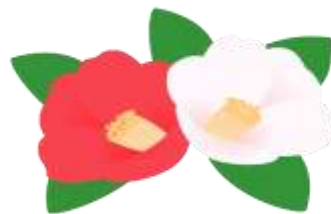


2026年2月

こんげつ よてい
【今月の予定】

じかん
ミサの時間

Tháng hai



1日(日) 年間第4主日	7:00	
2日(月・祝) 主の奉獻	10:00	「小教区評議会」
3日(月・記) 福者ユスト高山右近殉教者	——	「大齋」・・・一日に一回
5日(水・記) 日本26聖人殉教者	——	だけの十分な食事とその
8日(日) 年間第5主日	7:00	ほかに朝ともう一回わずかな食事をとることができ
「新教会建設献金の日(献金)」	10:00	満18歳以上満60歳未満の信者が守ります。
11日(火) 世界病者の日	——	「小齋」・・・肉類を食べないことですが、各自の
15日(日) 年間第6主日	7:00	判断で償いの他の形式とくに愛徳のわざ、信心業
	10:00	節制のわざの実行をもって代えることができ、満
ベトナム語ミサ	15:00	14歳以上の信者が守ります。
18日(水) 灰の水曜日	19:30	「病者のための祈りの集い」
21日(土) 初聖体勉強会	14:00	『灰の式』<大齋・小齋>
信仰講座	16:00	※「四旬節愛の献金」—キャンペーン小冊子や
22日(日) 四旬節第1主日	7:00	献金袋の配布がありますのでご利用下さい。
	10:00	<南地区宣教評議会 14時～金剛教会>
【平日のミサ】 木曜日	10:00	「子どもとともにささげるミサ」
5日、19日、26日(12日はお休み)		

古い枝を回収します！

玄関ホールに箱を設置しています。2/8(日)までに古い枝をお持ちください。(典礼委員会)

2025年聖年を振り返り・・・

・<牢屋の窄教会の事> 昨年の秋、以前より巡礼したいと思っていた長崎と五島列島の教会を巡って来ました。忘れられないのは、久賀島の牢屋の窄教会の横に立つ記念碑です。そこには拷問を受けた信者さんの事が記してありました。明治になって、浦上天主堂が建立され、隠れキリシタンの信者さんが、見つかった時、明治政府はキリシタン禁教令を解いてはいませんでした。久賀島で捕らえられた200名余りのキリシタン信者は12畳の広さの土間の牢屋に男女別々に身動きもままならない状態で詰め込まれ、排泄もそのまま、食べものはサツマイモ一切れ。押し潰されて亡くなる人、飢えと渴きで亡くなる人など、惨状を極めました。それは8ヶ月間続きました。亡くなったのは42人。碑には、助かった人はそれぞれ漁師や、商売をして静かに暮らしました。と書いてありました。



けれど、私には到底、心穏やかに静かに暮らされたとは思えません。棄教した人も、生き残って助かった人も、その後の人生、さぞ苦しまれたことだろうと思えるのです。長崎の街も五島列島も、美しい海と空、自然に恵まれたとても綺麗なところでした。立派な天主堂、美しい教会、小さくても信者さんの思いのこもった歴史ある教会を訪ね、祈りを捧げました。福江島、下五島、上五島も不便なので、タクシーで巡りましたが、運転手さんも、現地のボランティアの方も親切で、沢山の教会を案内して下さいました。思えば、昔はるばる海を越えて日本の長崎に来られた宣教師の方々、迫害を越えて来られたキリシタン信者の方々の信仰が守られたお陰で、私たちが信仰の自由を頂けていることは有難いと思った次第です。（信徒M.A.）



・＜25年に一度の特別な聖年＞ 多くの巡礼指定教会を巡礼できたこと、恵み多き一年だったと感謝の気持ちで一杯です。

初めて訪れた教会での祈り、初めてお会いした人から受けた親切、一緒に巡礼した人との交わりなど巡礼中のいろいろな出来事はすべて神様からの恵みと感じています。主日のミサで皆さんと歌った「希望の巡礼者」は聖年のテーマであり、歌うたびに皆さんの歌声が力をおび、

私の心を強めて下さっていると感じました。2025年の聖年は終わりましたが、これからも「希望の巡礼者」として、歩み続けることができますように・・・（信徒K.M.）

■ 釜ヶ崎炊き出し支援日誌(社会活動委員会) EとKより・・・1

信徒の皆様、昨年8月にはお米の炊き出し支援に御協力いただきありがとうございます。

年末年始は、神奈川県・福岡県・愛知県・島根県・広島県など遠方のミッションスクールの生徒さん達やボランティアの方々の協力で炊き出し支援の輪が繋がっていきました。

12月31日は年越しそば、1月1日は豚汁、1月3日はボランティアによる沖縄そばとバラエティーに富み、200～300人の方が新年を迎えています。食材は、皆様の支援によりフードバンクや寄付により成り立っています。修道会のシスター達も頑張って労働奉仕に参加しています。次月からも現地の状況をお願いします。昨年夏に冷凍庫が壊れて困っていますのでご協力をお願いします。・・・(つづく)



■世界病者の日（2月11日）

【ルルドの聖母】

「世界病者の日」は、聖ヨハネ・パウロ二世によって1993年から始まりました。この日は「ルルドの聖母の記念日」にあたります。毎年「世界病者の日」には、教皇メッセージが発表されます。病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な援助を得られるように、カトリックの医療関係者だけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。



➡病者訪問活動

当教会も教会に來れない病者の方、ご高齢の方へ訪問活動を行っています。施設やご自宅などご依頼に応じて訪問をしています。訪問を希望される方がおられましたら、司祭又は訪問チームスタッフまでご連絡ください。また、訪問活動奉仕者も募集しています。

➡病者のための祈りの集い

病気で教会に來れない方々の事を想い、病気の快復を願って、聖母マリアの祈りを捧げています。どなたでもご参加頂けます。

(病者訪問スタッフ：大竹、望月、古森)

音楽を通して

崔 周永神父

モース・ラヴェルの弦楽四重奏曲を聴いている。クラシック音楽において、そもそもフランス人の作曲家達に全くの興味がなかった時の自分だったら、随分現代音楽風のものを聴くことになる。人間、またここまで変わるのかと我ながら驚く。クラシック音楽は基本的に美しいと言える。その上、情緒だけに留まらず理性の処も刺激してくる。そういった音楽こそ、時間を掛けて聴くに値する。行方を知らない音の粒が周りを包んでくる。バイオリンを弾いたり弾く音が、ヴィオラやチェロの音色と混じって一つの時間と空間を占めていく。何処も実際に支配しようともせず、音楽は音の形で心に跡を残して消えていく。

時々、イタリアのラジオ放送を聴くが、取り分け、南部ナポリからの放送を好んで聴いている。サンタ・ルチア等のナポリ民謡で有名なあのナポリだ。今時のポップなナポリ音楽と古い民謡とを交互に流しているナポリラジオを聴いているうち、分かってきたことは、ここナポリはしっかりした伝統の上に、脈々と流れている歴史の上に今日を積み上げているのだ、と。このナポリの人々は過去の偉大な遺産を継承することへの限りないプライドを持っているのだ、と。

冒頭に少し触れたが、音の形の音楽は人間の心に何かの跡、つまり影響を与えてくる。良い、素晴らしい音楽は私たちの内面を潤して栄養を、悪い且つ酷いものは反対に心に余計な刺激を与えてしまう。クラシック音楽をよく聴いているが、時々、メタル音楽も、ロックも、ジャズも聴くし、たまにはポップ音楽も聴く。一日中に何回も欲しがらる音楽ジャンルが変わることさえ頻繁にある。何故だろうか。ただの音にとはいえない何かが音楽にあるからだろう。しっとりと包んでく

れる音楽に慰めを求める時もあれば、モーリス・ラヴェルのように聴き慣れてない曲の展開に、
新しい閃きを求める場合もある。

音楽は美しい。人間がその美しい音楽を作り、演奏され、人々はそれを楽しむ。さっと聴ける、
誰しものが良いねと頷ける分かりやすい音楽もあれば、聴き慣れるまで、かなりの忍耐と勉強とを
要する音楽もある。今、自分が一所懸命音楽を聴くその理由を一つ上げよう。人間理解をより深め
るためなのだ。人間は一つの楽器とも言える。自分の有様、それに沿った音を出すのだ。勿論、飾
るのが上手な人が奏でる音は最初は聴き分けするのが難しい場合もあるが、人間は必ず底がばれて
しまう。何故なら、隠しきれないからだ。本物や原型への探求！これが、良い、素晴らしい音楽
をずっと探し続ける目的で、その果てに人間の本質が見えてくるのだ。

成人された貴方へ、

貴方が本物であり続けることを切に願う。

よ
良い

